第21号
平成19年10月

生涯学習の窓

富山大学生涯学習教育研究センターニュース

[論説]バランス感覚に基づく公開講座を

竹井　史(人間発達科学部・教授)
Hitoshi TAKEI

大学開放は、大学のもつ「知」を地域に向けて提供していく仕事です。今日の地域大学にとって、大学開放はきわめて重要な意義をもっているのではないでしょうか。それは「あってもなくてもよい」というものではなく、「必要不可欠の事業」と言ってよい段階にきていると思います。それは、地域大学がよって立つところがまさに「地域社会」であるから、というのがその理由です。

適正な評価を

私は、「公開講座専門委員」として公開講座を企画する仕事に長く携わってきました。特に2001年度の企画において、所属する旧教育学部からの提供講座を質・量ともにレベルアップしていきたい、と強く感じて同僚に声をかけてまわりました。誰もが忙しい中、新しい仕事をもちかけるのは気が引けるところもありましたが、「幅広い地域貢献」という対外的な価値があるということだけでなく、「個人評価をプラスの評価へ」というメリットを説き、多くの仲間が協力してくれたことを思い出します。その結果、教育学部(当時)はかつてない数多くの公開講座を開設することが出来ました。



竹井先生は、学生の行事指導において優れた手腕を発揮することでも知られています。

しかしながら、その数は年とともに減少することになりました。その背景には、様々な理由があると思いますが、大学の貢献事業が整理されないままにあちこちで開設され、教員が振り回され、疲れ切ってしまったこと、さらには、現実的には公開講座を担当したからといって、労に見合った評価や充実感が得られにくかったところにその多くの原因があると思います。当然、モチベーションを維持

することも難しくなり、結果として沈滞ムードが漂うことになってしまったのではないでしょうか。公開講座は、地域大学が地域に根ざす上で重要な仕事であるとすれば、もっと評価されてもよいと思います。このままの状態では大学における社会貢献事業が潰える日も近いのではないかと思います。これは声を大にして言っておきたいと思います。

企画のバランス感覚

公開講座を企画・依頼するとき、常に念頭に置いていることが一つあります。それは、地域社会のニーズ、大学のシーズがかみあう形でなくてはならない、ということです。公開講座の企画に直接携わる公開講座専門委員に問われているのは、まさにそのコーディネイト力にあると思います。研究成果、あるいは所属学会の最新動向などの「生」の知識は、それ自体は尊い価値をもっていますが、そのまま地域社会向けの教育サービスになりにくいところがあります。かといって、あまり過度に単純化したり、「ハウ・トゥ」に傾斜したりすることは、元の「知」の魅力を失わせてしまうでしょう。要はバランス感覚です。

公開講座「西洋の食文化と歴史」（人間発達科学部・徳橋曜先生担当）は、大学で行う公開講座のヒントの一つとして、またそのバランス感覚を説明する上で好例だと思います。この講座は、単なる歴史を開設するというにとどまらず、ご本人が興味を持たれている食に関する具体的な実習をも取り入れながら、西洋文化の立体的な理解を提供するものです。学部教育で提供される西洋史とは違ったテーマを扱っている点で学問そのままではなく、かといって一般の料理教室とも全然違う知的背景があるわけです。ここに大学でしか提供できない味が生まれているわけです。

これからの公開講座の企画には、こんな視点が求められるのではないかと感じますが、いかがでしょうか？

遊び心をもって

こんな風に言うと、堅苦しい、また慣れない仕事が舞い込んできそうだ、という気分にしかならない方もおられるでしょう。しかし、ご自分ではごく当たり前のことであっても、第三者から見ればとても面白い事柄である場合が少なくありません。そのようなシーンを何度も体験してきました。また、研究成果を地域社会に還元する仕事は、やり方次第で考える以上に楽しいものであるものだと思います。研究成果をわかりやすく説明するプロセスで新たなアイデアが生み出されることもあります。また、専門的な知識だけでなく、自分の得意とするところ、趣味を生かしたものなど、様々なテーマを考えることができると思います。

大学ほど多様な人材をもつ組織はないと思います。知の営みを大学の中だけで消費するような不経済をやめ、社会に開放し、地域大学が、名実ともに地域社会とともに歩む道が開けるよう願ってやみません。

［大学開放インフォメーション］地域に大学を開く試み

●公開講座

４月12日（木）より開講の公開講座「家庭菜園を楽しもう」を皮切りに、本年度も多くの公開講座が実施されています。本年度は、前期・後期あわせて70講座程度が開講する予定です。本ニュース前号でお知らせしましたとおり、これは全国的にもトップクラスの実績です。既にいくつかの公開講座は無事終了しました。以下、いくつか受講生の声を見てみましょう。

「WORDやEXCELのように、そのうちわかるようになるだろうと思いつつ、なんともならなかったのですが、この６回の講座でわかるようになって大変うれしいです。」（ＣＡＤ入門）

「とても楽しく受講させていただきました。終了時には作品が１つ仕上がり、充実した講座でした。」（キッチンツール制作）

「How-to本では細部の理解が困難であった点が、講義によって解決できた。親切で細部にわたる内容で、参加できて心より感謝します。」（Word 2007）

「今まで見たこともない国の映画を見せていただき、有意義でした。」（世界の映画）

「大学の雰囲気や知性に一般人が出会う貴重な機会を提供していただき感謝しています。本を読んだだけではなかなかわからない最先端の知識を教えていただき、目が覚めるようでした。」（Web 2.0）

このように、公開講座は市民の皆様に大変好評です。本センターでは、今後とも創意工夫あふれる公開講座の企画をサポートしていきたいと存じます。



上海での海外研修風景

●公開授業Open Class

本年度前学期オープン・クラス（公開授業）が終了し後学期が始まろうとしています。今回は麻疹（はしか）発生の疑いにより緊急に休講・構内への立ち入り禁止措置がとられた関係で、若干のスケジュール調整がなされた結果、担当の先生方ならびに受講生の皆様にはご面倒をおかけすることになりました。

前学期は、五福キャンパス・高岡キャンパスあわせて500科目以上の授業が開放されました。そのうち、合計102科目に受講生が参加し、のべ162人一般市民が学生と共に学びました。

公開授業は、通常の正規学生向け授業をそのまま開講するものであり、基本的に先生方に特別のご負担いただく事業ではありません。どうぞ今後ともより多くの授業科目を公開していただきますよう、お願いいたします。

以下は、前学期受講生の声です。

「毎回の講義の後、研究室で些細な質問にもひとつひとつ丁寧に答えていただき、ありがとうございました。」

「受講し始めて丸５年が経ちました。すばらしい内容のお話を多く聞かせていただき、ささやかな自分の夢を紡ぐことができ、感謝しております。」

「若い学生さんたちに混じって学ぶことができ、とても楽しかったです。大学生というのは思ったよりずっと勉強しているのだなと思いました。」

「はじめて受講しましたが、ご熱心な、てきぱきしたご指導をいただき、ますます学習への意欲がわいてきました。」

「約半世紀ぶりに（大学の）授業を受けました。学生時代とはまた違った目的をもって勉強しましたので、毎回非常に楽しくうけさせていただきました。」

●生涯学習メールマガジン

本センターでは、今年に入ってからメールマガジンの配信サービスを開始いたしましたが、既に６回のお知らせをお送りすることができました。主な内容は、公開講座、公開授業の開講情報、ならびに受講生へのアンケート紹介です。現在のところ、100人以上の皆様に配信しております。

もちろん、学内・学外を問わず希望者全員に配信いたしますので、ご希望の方はお気軽にお申し込み下さい。Web上からでも、FAXでも受け付けています。

URL：http://www.life.u-toyama.ac.jp/enews.html

FAX：076－445－6960

●第８回富山大学大学開放推進懇話会

去る平成19年２月９日（金）、事務局大会議室にて定例の大学開放推進懇話会が開催されました。学外識者をはじめ本センタースタッフ及び運営委員あわせて20名の参加により、大学の教育・研究の成果をどう大学開放として実現していくか、等について種々意見が交わされました。



健康・スポーツ講座

会 議 報 告

●第8回富山大学大学開放推進懇話会

日　時：平成19年２月19日（金）14:00～16:10

場　所：富山大学事務局大会議室（5階）

●平成18年度第3回生涯学習教育研究センター運営委員会（持ち回り）

◇富山大学生涯学習教育研究センター規則等の改正（案）について

●平成19年度北陸地区国立大学連合協議会社会貢献系専門委員会

日　時：平成19年６月４日（月）15:00～17:01

場　所：金沢大学サテライト・プラザ（於石川県金沢市）

◇平成18年度まちなかセミナーの実施状況に関する報告・協議

◇平成19年度まちなかセミナーの実施計画について



発行：富山大学生涯学習教育研究センター／〒930-8555富山市五福3190／TEL076-445-6956／FAX076-445-6960